



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 品質管理検定レベル表改訂について
- 2-私の提言 温故知新一日本の品質管理の再興を願って
- 2-ルポルターージュ 第378回中部事業所見学会ルポ
- 3-ルポルターージュ 第379回事業所見学会ルポ/12月の入会者紹介/行事案内
- 4-行事案内/教員公募

品質管理検定レベル表改訂について

(独)統計センター 椿 広計

品質管理検定レベル表改定の経緯

品質管理検定は、2005年に開始されて10年になる。2015年3月に実施された第19回検定までの累積受検申込者数は616,672名、累積合格者数は332,264名に達し、わが国品質管理界でも屈指の人財育成事業に成長した。

品質管理検定運営委員会は2012年4月から制度見直しを開始し、2013年1月に「品質管理検定新制度の概要」を公表し、準1級制度の創設や複数回受検による研鑽の奨励などを展開した。この結果、第19回受検者数は、61,512名と過去最高になっている。

制度見直しの際、産業界の国内外のニーズや品質管理の発展に併せて変化する「品質管理で求められる知識・能力」に対応するために、「品質管理検定レベル表の定期的な見直し・改訂」を実施することも表明した。今般、認定団体である日本品質管理学会理事会の承認を受けて、2015年9月に実施される第20回検定から、改訂品質管理検定レベル表に基づく出題で検定が実施されることとなった。

レベル表改訂作業とその方針

改訂作業は2013年7月から2014年8月まで、小職を責任者とするレベル表改訂WGが行った。そこでは、日本品質管理学会、産業界、技術小委員会（出題委員会）からの意見の収集が行われ

た。品質管理の基本的考え方が短期的に変わることはないので、全面改訂の必要性はないというのが当初からのコンセンサスであった。しかし、現行の出題範囲の問題点を拾い上げると共に、日本品質管理学会編「品質保証ガイドブック」との整合性、特にレベル表大項目のあり方などについての議論を行った。また、1級から3級までに必要な知識を概観するために、出題範囲とする項目を縦軸に、必要な知識のレベルを横軸にしたQC検定レベル表マトリックスを作成することとした。

レベル表マトリックスは、品質管理に必要な知識の領域も可能な限り俯瞰できるよう、大項目、中項目（実践分野では一部小項目も加えている）を配置した。また、各小項目に対して、知らなくても良ければ無印、言葉として知っていれば良い項目は△、その内容を知識（定義と共に基本的な考え方）として理解すべき項目は○、その内容を実務で適用できる項目は◎が付されている。今回のレベル表で試験範囲に追加された項目については級ごとに*も付されている。例えば、実践分野には大項目「品質保証」には中項目「新製品開発」、小項目「品質保証体系図」が配置されているが、3級は△*として新たに試験範囲とし、2級は、○、1級は、◎といった形で従来通りということが分かるようにした。

前回レベル表からの変化点

今回改訂で強化した項目は、実践分野では3級に限定された。中項目「新製品開発」小項目「課題達成型QCストーリー」、「測定誤差の評価」、「官能検査、感性品質」、「品質マネジメントの原則」、「ISO9001」である。多くは、△レベルとしての追加である。

手法分野は、確率分布、計数値データに基づく検定・推定を中心に強化が行われている。3級では、「相関係数」が◎、「正規分布」、「指数分布」、「p管理図、np管理図」が○レベルを要求している。級では、計数値に関わる確率分布（二項分布、ポアソン分布、統計量の分布）が◎、大項目としての「計数値データに基づく検定と推定」の大半が◎に強化された。これ以外に「帰帰診断」、「信頼性データのまとめ方と解析」が○になっている。1級でも、あらたに「ノンパラメトリック法」と「感性品質と官能評価手法」が○として追加された。

品質管理検定を利用して品質管理を勉強する方が大変多くなったが、比較的専門家が受検した初期から比べると合格率は減少している。しかし、品質管理活動ないしはそのリーダーに必要な知識には、一定の保証が必要である。産学の多くの皆様方には、これからも十全の準備と研鑽を積んで品質管理検定に挑戦して頂くことをお願いしたい。

● 私の提言 ●

温故知新—日本の品質管理の再興を願って

(一財) 日本規格協会 研修事業部長 古川 静男



孔子の名言に「温故知新」という言葉がある。会員のみなさんには、言わずもがなではあると思うが、温故知新とは、「昔のことをよく学び、そこから新しい知識や道理を得たり、過去の事柄を研究して、現在の事態に対処する」ことである。そこで、最近の日本の品質管理教育の状況を考えてみたい。高度成長期には、当会をはじめとする管理技術を普及する団体や企業内で開催されるセミナー・

講習会は盛況を極め、また、TQC(M)やQCサークルなどの活動に関する発表会も然りであった。さらに、管理技術をテーマとした機関誌などでは、各社の事例が豊富に掲載され、参考としたいものは容易に入手することができた。

ところが、昨今のグローバル化の進展が凄まじい中、規模の大小を問わず日本企業の多くが海外進出を果たし、QCDそれぞれの局面で競合他社と凌ぎをけずっている状況であり、その忙しさのあまり、品質管理教育の実態は高度成長期とは程遠い状況になり、おどろきにされているのではなからうかと感じている。

現在、本学会では、これらを打開し日本の品質管理の再興のために、大久保会長のリーダーシップの下、長期計画検討会に於いてこれからの本学会の在り方を討議中であるが、今後、当会をはじめ管理技術を普及する団体などが参画してALL JAPANでの品質管理活動支援体制を構築し、もう一度品質管理の概念を正しく発信し、日本の品質管理の再興を提言する予定である。

今年はISO9000、14000規格のダブル改訂が予定されているが、奇しくも石川馨先生の生誕100年の年でもある。孔子の教えに倣って石川馨先生など先人の智慧や高度成長期の事柄を研究して、新しいものと旧いものを融合させ、更に有効な管理技術を開発し、それを活用することにより日本の品質管理が再興すること願っている。また、標準化を普及推進する教育機関の一員として、そのお手伝いが出来ればと考えている。

第378回中部 事業所見学会 ルポ

浜松ホトニクス(株) 豊岡製作所

さる、平成27年2月26日(休)に第378回(中部支部第96回)事業所見学会が、浜松ホトニクス(株)豊岡製作所(静岡県磐田市)にて開催された。

「現場が主役のものづくり」のテーマの下、29名の参加者で行われた。

浜松ホトニクスはテレビの父と言われる、高柳健次郎氏の教え子である堀内平八郎氏が、ブラウン管テレビ発祥の地浜松に1953年(昭和28年)創業した浜松テレビが母体である。その後、社名を浜松ホトニクスに変え、現在に至っている。また、ノーベル賞受賞の実験設備であるカミオカンデの光電子増倍管などで知られる、世界トップの技術力を持つ企業である。

最初に、会社の概要と品質向上の様々な取り組みを説明いただいた。従業員全員が自由にテーマを持ち研究開発を行っており、その中からステルスダイシング

といった新しい技術も誕生している。一方、企業としては利益を確保していかなければならないため、金券と呼ばれる社内通貨を使用し、収益を常に意識させる仕組みも紹介していただいた。

現場は、工場というよりも研究所といった雰囲気であり、通常よく見かける標準書や管理板などはほとんど見かけなかった。これは製品の性質上、代替需要があまりなく常に新しい性能を要求されるため、常によりよい物を作るために標準化に頼らない品質確保を行っているためであり、オンリーワン技術の源であるように感じた。また、作業者が自由に工夫や改善を行っているところが随所に見られ、ものづくりの原点の楽しさを実感できた。

全体を通して参加者からも非常に多くの質問があり活発な意見交換も見られ大いなる驚きと気付きを持って帰られたと感じた。

最後に浜松ホトニクス豊岡製作所の皆様にはご多忙の中、充実した見学内容と丁寧な説明をご提供頂きました事に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

村松 孝浩(トヨタ紡織(株))

第379回 事業所見学会 ルポ

(株)コーセーにおける 化粧品の品質管理・ 改善の実際

平成27年3月17日(火)、第379回事業所見学会が(株)コーセー狭山事業所にて、22名の参加で開催された。(株)コーセーは1980年に化粧品業界では初めてデミング賞事業所表彰を受賞するなど、品質管理に対し高い意識をもった企業であり、工場内の標識、職場の掲示物ひとつとっても5S活動の徹底した環境だという印象を受けた。また、人の肌に直接触れる製品を扱っているため、製品安全面に対しても服装等細心の注意を払っていた。狭山工場では主にメイク製品、群馬工場ではスキンケア製品の生産をおこなっているとのことで、今回はファンデーション・口紅などの生産ラインを見学することができた。

見学会に先立ち、工場の概要、また全社的に取り組

んでいるQCサークル活動についての説明があり、特にQCサークルについては、パート社員中心でありながら、創意工夫改善に向けた活発な取り組みの様子がうかがい知ることができた。この点については、上司や推進者がサークルの運営、社員の育成、指導、助言を積極的に行っているとのことで、このような姿勢が社員のやる気を引き出し、サークル活動の活性化につながっていると感じた。

生産ラインでは、化粧品とあってか女性社員の多さに驚いた。年間5,000品種の生産があり、さらにその内1,500品種は新製品というなかでも、製品見本確認や教育、読み上げ作業等の徹底で、品種間違い等製造上のエラーを発生させないシステムは参考になった。

最後に、今回の見学会開催に際し、ご多忙の所(株)コーセー林執行役員をはじめ準備作業、丁寧な説明をしていただいた関係者の皆様には感謝申し上げます。

藤谷 大輔 (ぺんてる(株))

2014年12月の 入会者紹介

2014年12月18日の理事会において、下記の通り正会員28名、準会員1名、職域会員1名、賛助会員3社3口の入会が承認されました。

(正会員28名) ○柳澤 航平・菅野宏・佐藤 政樹 (パナソニック) ○林秀行 (日本電気) ○大原 智彦 (積水化学工業) ○澤村 祐一・花井 誠一郎 (三菱重工業) ○土屋 和 (日本施設園芸協会) ○澤田 和弥 (デンソー) ○池田 豊明 (プライムアースEVエナジー) ○奥川 浩巳 (アスモ) ○徳永 健一 (サクラ精機) ○細田 直樹 ○筒井 麗生 (日立製作所) ○中江慶 (日本ジョン・クレーン) ○布村 崇裕 (アズビル金門) ○酒井 亮祐 (テバ製薬) ○白田 晶子 (アイシン精機) ○多谷 健嗣 (岩崎電機製作所) ○今井 紀子 (栃木県立鹿沼商工高校) ○納田 和彦 (東芝) ○綿民 誠 (ジエイテクト) ○輿水 美奈 (北海道農

業研究センター) ○中川 功 (Sky) ○天野 正道 (住友重機械工業) ○上野 和也 (玉越工業) ○恩田 昌彦 (システム規格社) ○鴻巣 みゆき (YKK AP)

(準会員1名) ○蔣 文琳 (成城大学)

(職域会員1名) ○藤岡 稔 (デンソー)

(賛助会員3社3口) ○奈良積水○積水成型工業○岩崎電機製作所

正会員：2129名

準会員：77名

職域会員：27名

賛助会員：156社201口

公共会員：18口

行事案内

●第124回講演会 (関西)

テーマ：イノベーションの起点となる「行動観察」と「ビッグデータ」
日時：2015年5月21日(木)13:15~16:55
会場：大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール

プログラム：

講演①：『現場起点のイノベーション手法、「行動観察」とは』
小野 泰氏
(大阪ガス行動観察研究所)

講演②：『新製品の市場への早期投入を支えるアナリティクス』
宮森 誠氏 (村田製作所)

参加費：会 員4,000円 非会員6,000円

準会員2,000円一般学生3,000円
※当日払い

申込方法：

4月送付の参加申込書にご記入の上、関西支部事務局までお申し込みください。
詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h270521>

●第123回講演会 (中部)

日時：2015年5月29日(金)13:00~16:30
会場：名古屋国際センター 別棟ホール
プログラム：

「ホントは役立つ問題解決法」

安藤之裕氏

(TQMコンサルタント 技術士)

参加費：会 員3,780円 非会員4,860円
 準会員2,700円一般学生3,240円
 申込先：中部支部事務局
 詳細：http://www.jsqc.org/q/news/
 events/index.html#h270529

●第107回研究発表会（本部）

日 時：2015年5月30日(土)
 会 場：日本科学技術連盟東高円寺ビル
 プログラム：

10：00～11：00

チュートリアルセッションA

「MTシステムはどのように使われているか」

立林和夫氏（元 富士ゼロックス）

11：00～12：00

チュートリアルセッションB

「セキソーにおけるTQM活動の推進」

林 新一氏（セキソー）

13：00～17：55 研究発表会

18：10～19：40 懇親会

参加費：（懇親会以外の当日払いは別金額）

チュートリアルセッション・研究発表会

会 員 6,480円（締切後 7,020円）

非会員12,960円（締切後14,040円）

準会員3,240円・一般学生4,320円

研究発表会のみ

会 員4,320円（締切後4,860円）

非会員8,640円（締切後9,720円）

準会員2,160円・一般学生3,240円

懇親会

会 員・非会員 4,500円

準会員・一般学生2,500円

申込締切：2015年5月20日(水)

詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/
 events/index.html#h270530

●第102回QCサロン（関西）

テーマ：TQMで経営改革一先達に学ぶー

ゲスト：細谷克也氏

（品質管理総合研究所）

日 時：2015年6月11日(木)19：00～20：30

会 場：新藤田ビル11階

（日科技連・大阪事務所）〔予定〕

参加費：1,000円（含軽食・当日払い）

申込先：関西支部事務局

詳細：http://www.jsqc.org/q/news/
 events/index.html#h270611

●第94回クオリティトーク（本部）

テーマ：TQM（総合的品質管理）の標準化

ゲスト：中條武志氏（中央大学）

日 時：2015年6月24日(火)18：00～20：30

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階研修室

定 員：30名

参加費：会員3,500円 非会員4,500円

準会員・一般学生2,500円

（含軽食・当日払い）

申込先：本部事務局

●第155回シンポジウム（中部）

テーマ：おもてなし企業から学ぶ、お客様の期待を超える商品・サービスの創造～輝く“社員”生き活きたとした“組織”共有する“理念”で風土と仕事を変える～

日 時：2015年7月16日(木)12：45～17：00

会 場：刈谷市総合文化センター
 「アイリス」1階小ホール

定 員：180名

プログラム：

基調講演：瀬戸川礼子氏

（ジャーナリスト）

事例講演①石原慧子氏

（安城自動車学校）

事例講演②石坂典子氏（石坂産業）

参加費：会 員4,320円 非会員5,400円

準会員2,160円一般学生2,700円

申込先：中部支部事務局

●第122回／第125回講演会（本部）

テーマ：これからのTQMと品質

第122回：2015年7月27日(月)13：00～16：20

会 場：日本科学技術連盟 東高円寺ビル
 地下1階講堂

第125回：2015年8月5日(月)13：00～16：20

会 場：積水化学工業 京都研究所

講演者：狩野紀昭氏（東京理科大学）

参加費：会 員4,320円（締切後 4,860円）

非会員8,640円（締切後 9,720円）

準会員2,160円一般学生3,240円

※当日払いは別金額となります。

詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/
 events/index.html#h270727

●第108回研究発表会（中部）発表募集

日 時：2015年8月26日(水)

会 場：名古屋工業大学

申込締切：

発表申込締切：5月29日(金)

予稿原稿締切：7月17日(金)必着

参加申込締切：8月19日(水)

申込先：中部支部事務局

詳細：http://www.jsqc.org/q/news/
 events/index.html#h270826

●第109回研究発表会（関西）発表募集

日 時：2015年9月18日(金)

会 場：大阪大学中之島センター

申込締切：

発表申込締切：7月21日(火)

予稿原稿締切：8月26日(水)必着

申込方法：

4月送付の参加申込書にご記入の上、関西支部事務局までお申し込みください。

詳細：http://www.jsqc.org/q/news/
 events/index.html#h270918

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

中部支部：FAX 052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：FAX 06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org

教員公募

職業能力開発総合大学校 教員公募

募集人員 助教または助手 1名
 専門分野 経営工学を基盤として、納期・コストの視点から企業経営のあり方を検討する分野。企業のシステム分析を実践的に展開する分野
 着任時期 平成27年10月1日（予定）
 応募締切 平成27年6月12日(金)（当日消印有効）
 詳細 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構HPの募集要項をご覧ください。
http://www.jeed.or.jp/jeed/recruit/h27_uitec.html

慶應義塾大学 教員公募

募集人員 理工学部管理工学科／大学院理工学研究科開放環境科学専攻
 教授、准教授、専任講師、または専任講師（有期） 1名
 専門分野 統計学を研究分野とし、国際的な視野で、社会・経営課題を解決するための視点を持ちながら、統計学の理論（応用統計学、計算機統計学、統計的機械学習、統計モデリングなど）、高度かつ実践的なデータ解析に関する研究・教育ができる人材を求めます。
 着任時期 2016年4月1日
 応募締切 2015年7月10日(金)必着
 詳細 <http://www.st.keio.ac.jp/corporations/recruit/09.html>